

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	鳥取県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	1	16	27
生徒数	176	183	192	5	556	

研究の概要

1. 研究主題 豊かな心と学力を育み、共に支え合い高め合う生徒の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科および学級活動等で研究に取り組む。学力向上を図るには、個人の学習意欲を高め、学習集団の人間関係を育てることが大切であり、全教科で取り組む必要がある。また、学習集団の育成には学級集団づくりが大切となり、教科以外の場面での研究も進めなければならないと考えた。

チームティーチング実施学年・教科

- ・1、2年生・英語...コミュニケーション活動に重点を置いた学習を進めるに当たって、複数教員による実演および個別指導が効果的に学習に生かされるため。
- ・1、3年生・数学...生徒の理解の状況や学習意欲に差が出やすい教科、学年であるため。

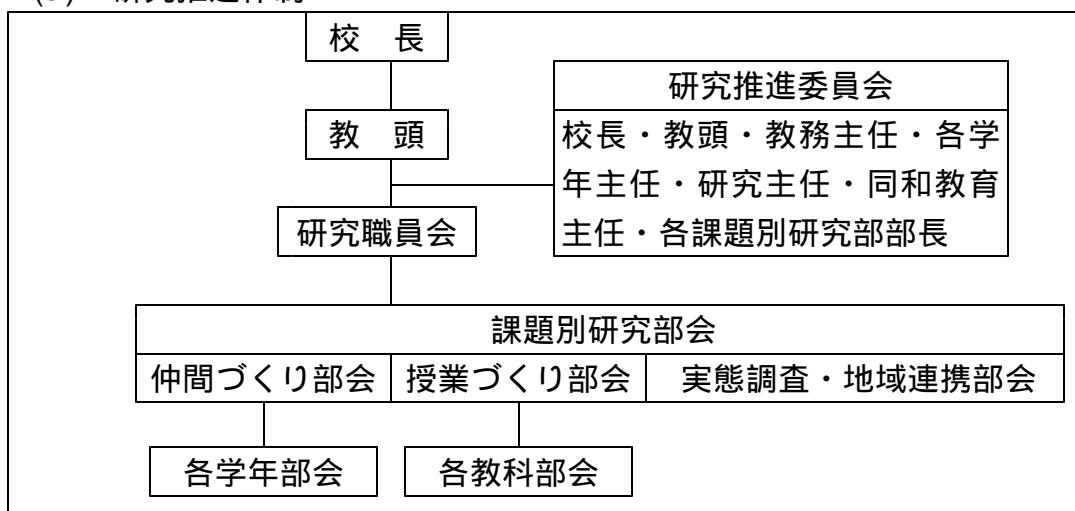
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>学力向上と仲間づくりをめざした小集団を活用した学習指導。効果的な評価と支援のあり方(指導と評価の一体化)。</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>仲間づくりを中心とした人権・同和教育と一人一人の学力を向上させる取り組みを、互いに関連させながら実践していく。教科を中心としたさまざまな場面において生徒同士の関わり合いを意図的にしくみ、思いを語り合える仲間にしていく。そして、共に考えたり活動することで、学習意欲を喚起するとともに学習内容の理解を促す。つまり、授業で人間関係を育て、人間関係を育てることで学習も深まると考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>1) 共に支え合い高め合う仲間づくり・学級づくりの研究。</p>
--------	---

	<p>班のねらいを明確にした班づくりと班活動の充実。 朝の会・終わりの会の充実。 学級開きを、人権教育・仲間づくりの観点で行う。 人権弁論で、自分の思いをきちんと語り、人の思いを自分の思いとして返していく。</p> <p>2) 生徒が主体的に取り組み、他と関わり合いながら深めていく学習活動の研究。 「学習集団づくり」の前提となる学習規律の確立。 共に考えたり活動することのできる教材の開発・指導方法の工夫改善。(班による話し合い・教え合い学習)</p> <p>3) 生徒の基礎学力の定着と学力の向上に向けた研究。 数学科と英語科における T - T 指導の研究。 選択教科における個に応じた指導の研究。 指導につながる評価のあり方の研究。</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>学力向上と仲間づくりをめざした小集団を活用した学習指導。 生徒が主体的に学習に取り組む単元や課題の設定の仕方と支援のあり方。</p> <p>研究の見通し(仮説) 平成15年度の仮説をさらに検証していく。</p> <p>研究の内容・方法 平成15年度の取り組みを継続しつつ、さらに生徒が主体的に学習に取り組む単元や課題の設定の仕方と支援のあり方について、各教科間の連携を図りながら授業研究を中心に研究に取り組んでいく。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

仲間づくりを基盤に置くことで、学級の中で少しずつではあるが、支持的学習風土ができてきた。たとえば間違っただけの発言をしたとき、学級のみなが笑うような状況では、生徒一人一人が意欲的主体的に学習に取り組むことは難しい。しかし、自由で多様な発想が発言できる雰囲気があれば、生徒は課題解決に向けて進んで取り組むことができる。下の意識調査の結果においても、小集団で学習することは個人の役割や責任が明確になり発言機会や出番も多くなるため、生徒一人一人が学習を楽しみにするとともに、わからないことを気軽に聞いたりすることで学習の理解度も上がっていることが伺える。

第3学年抽出1クラス(34名)	
「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合	
・勉強の内容がよくわかる。	79%
・先生や友だちの話をよく聞いている。	82%
・わからないことなどを先生や友達に聞きやすい。	88%
・班でする学習を楽しみにしている。	79%

第1学年においては数学科においてチームティーチングを実施しているが、生徒の理解の状況や学習意欲に差が出やすい教科、学年であるにも関わらず、下のような調査結果が出ている。一つの教室に二人の教員がいることで、わからないことを聞きやすかったり、話をよく聞くことができ、進んで学習に取り組むことで学習内容がよりよくわかるようになってきていると思われる。また、第2学年の英語科においても、チームティーチングを実施することで、生徒の興味・関心を

促すとともに理解や意欲の向上を図ることができた。

第1学年抽出1クラス(33名) 「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合	9月	1月
・勉強の内容がよくわかる。	67%	72%
・先生や友だちの話をよく聞いている。	85%	86%
・自分の力で学習問題を解決しようとしている。	70%	81%
・わからないことなど先生に聞きやすい。	52%	68%

全教科において研究実践する(全職員が一回は授業研究を行う)ことで、まだ十分ではないが、個に応じた学習指導のための教材開発や指導方法の工夫改善、評価を生かした学習指導の改善などを図るとともに、教職員個々の意識改革や指導力向上につながったと思われる。

2. 今後の課題

前年度の反省をふまえつつ、各学級における仲間づくりを進めると同時に、個が生き個に応じた学習活動となる仲間づくりを基盤とした教科指導の研究。(授業研究を中心とした各教科の教材開発や指導方法の工夫改善。)

外部講師による理論研究の継続および理論に基づいた研究の実践。

生徒個々および全体における学力向上の変容・実態の具体的数値による把握。

研究のまとめと成果の普及。

学力把握のための学校としての取組

CRT …… 個人、および学年・学校全体の学力の状況を把握。

国・社・数・理・英。全学年5月に実施。

定期テスト・学力診断テスト …… 学習の定着度や個人の学力の変容を捉える。全学年全教科。定テは年5回。学診テは随時。

ノート・プリント・作品など …… 授業における個人の取り組みの状況について把握し、その変容を捉える。随時実施。

学習に関する生徒意識調査 …… 家庭学習の状況および授業における学習意欲や関心などについて把握する。随時実施。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1年間の研究の取り組みを冊子にまとめる。

ホームページに研究成果の一部を紹介する予定。

各教科ごとに授業を公開。

校区小学校との連携。



- 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)
- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無